



2026 年 8 月 31 日

各 位

会 社 名 株 式 会 社 メ デ ィ ア ド ウ
代表者名 代表取締役社長 CEO 藤田 恭嗣
(コード：3678、東証プライム)
問合せ先 上 級 執 行 役 員 所 昇 一 郎
(TEL. 03-6212-5111)

2027 年 2 月期 1Q 決算 FAQ

2027 年 2 月期 1Q 決算について、今月までに投資家様より頂戴した主なご質問とその回答について、下記のとおり開示いたします。

なお、本開示は投資家様への情報発信強化とフェア・ディスクロージャーを目的に、決算発表翌月末（8 月、11 月、2 月、5 月）にまとめて公開する予定です。回答内容については、時点のずれによって多少の齟齬が生じる可能性があります。直近の回答内容をその時点における最新の当社方針として記載しております。詳細は、別紙「決算 FAQ」をご参照ください。

また、2027 年 2 月期 1Q 決算関連資料は以下よりご参照ください。

■決算短信

URL：<https://ssl4.eir-parts.net/doc/3678/tdnet/2851778/00.pdf>

■決算説明資料

URL：https://ssl4.eir-parts.net/doc/3678/ir_material_for_fiscal_ym3/208616/00.pdf

■決算説明動画

URL：<https://mediado.jp/ir/>

■決算説明会書き起こし

URL：<https://finance.logmi.jp/articles/385242>

以 上



決算FAQ

株式会社メディアドゥ
2027年2月期 1Q決算
2026.8.31



1Q

業績・財務

Q1. 27/2期1Q決算の評価を教えてください。(p.4)

Q2. 27/2期2Q以降の営業利益の前提について教えてください。(p.6)

電子書籍流通事業

Q3. 取次事業の成長率(既存/新規)について教えてください。(p.7)

戦略投資事業全般

Q4. 27/2期1Qにおける戦略投資事業の営業損益の内訳、および今後の見通しについて教えてください。(p.8)

国際事業

Q5. Seven Seasの足元の業績、および連結業績への貢献時期と金額感についてどのように見込んでいるのか教えてください。(p.9)

通年

業績・財務面

Q6. 27/2期の数値計画について教えてください。(p.11)

Q7. 27/2期の営業利益予想における各事業の増減要因について教えてください。(p.12)

電子書籍流通事業

Q8. 売上高の季節性について教えてください。(p.13)

戦略投資事業全般

Q9. 事業ポートフォリオの見直し基準および状況について教えてください。(p.14)

Q10. 戦略投資事業全体の黒字化のタイミングはいつ頃を想定しているのか教えてください。(p.15)

国際事業

Q11. Seven Seasがメディアドゥグループに参画したことによるSeven Seasにとってのシナジーを短期と中長期に分けて教えてください。(p.16)

その他

Q12. 今後の株主還元に関する方針について教えてください。(p.17)

決算FAQ 27/2期 1Q

FAQs for Q1 FYE 2/27

Q1

27/2期1Q決算の評価を教えてください。

A

27/2期 1Qの業績は、売上高270.7億円（前年同期比+4.1％）、営業利益4.4億円（同-32.6％）、親会社株主に帰属する四半期純利益1.2億円（同-84.2％）となり、増収減益での着地となりました。なお、減益ではあるものの、期初想定を上回る進捗となっております。

- 売上高**：主に電子書籍流通事業が堅調に推移し、成長を牽引したことで増収となりました。
- 営業利益**：電子書籍流通事業における高利益率サービスが前期（26/2期 3Q）に終了したことや、同四半期より業績不振の日本文芸社、ならびにシステム開発投資が響き、減益となりました。
- 親会社株主に帰属する当期純利益**：26/2期 1QにおけるMyAnimeListの売却益計上（5.3億円）の反動に加え、2026年3月に実施したSeven Seasの買収関連費用（2.2億円）を計上したことから、他の利益項目と比較して減益幅が大きくなっております。

	26/2期 1Q	27/2期 1Q	前年同期比
売上高	260.1億円	270.7億円	+4.1％（+10.6億円）
EBITDA	9.5億円	7.4億円	-21.7％（-2.1億円）
営業利益	6.5億円	4.4億円	-32.6％（-2.1億円）
親会社株主に帰属する 当期純利益	8.1億円	1.2億円	-84.2％（-6.9億円）

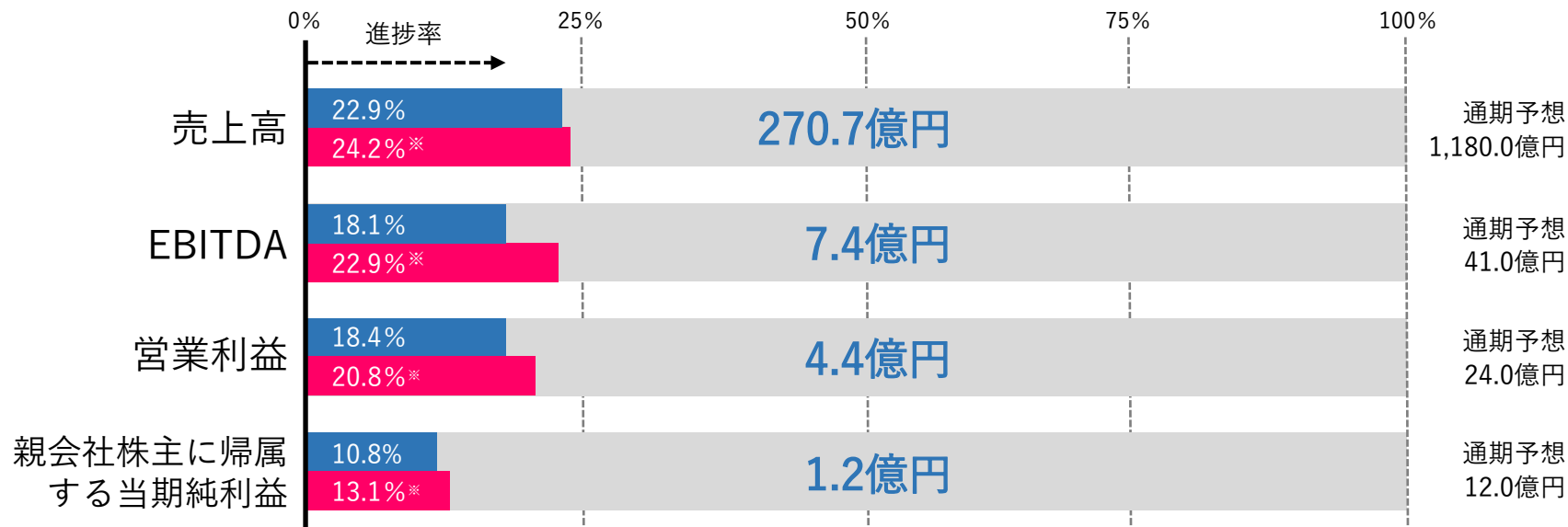
26/2期1Q：MAL売却益（+5.3億円）を計上
27/2期1Q：Seven Seas買収費用（-2.2億円）を計上



Q1 27/2期1Q決算の評価を教えてください。

A

当社の業績には季節性があり、大型連休等を含む第2四半期および第4四半期と比較して、第1四半期は例年売上高・利益額ともに少なくなる傾向があります。特に27/2期においては、2026年3月に買収したSeven Seasの損益連結が第2四半期から開始される影響もあり、通期予想に対する第1四半期の進捗率は例年より低く見えております。



※Seven Seasの寄与を控除した場合の進捗率を併記



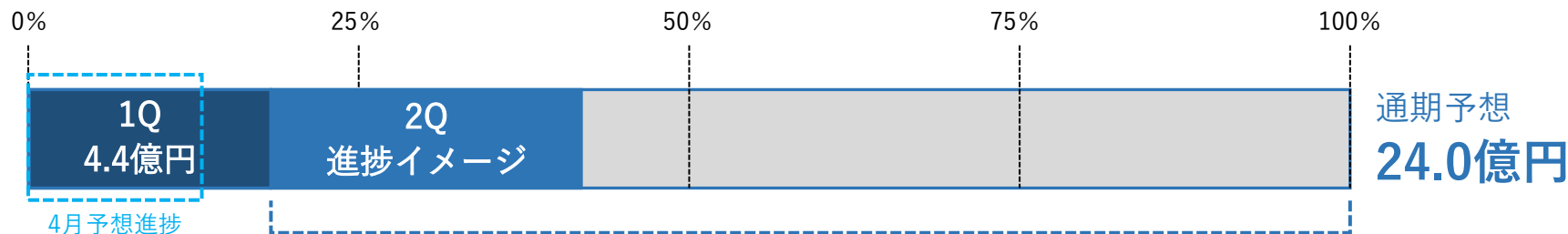
Q2 27/2期2Q以降の営業利益の前提について教えてください。

A 27/2期 2Qの営業利益は、電子書籍流通事業における高収益サービスの終了影響などが一部残るため、前年同期比で減益となる見込みです。しかし、3Q以降は、2Qより連結開始となるSeven Seasの寄与や戦略投資事業の赤字縮小が奏功し、前年同期比で増益へ転じる想定です。通期計画（営業利益24.0億円）の達成に向けて順調に推移しております。

セグメント別の前提条件は以下の通りです。

電子書籍流通事業：2Qは季節性により1Q比で増益を見込む一方、26/2期 3Qに発生した高収益サービスの終了影響が27/2期 2Qまで残ることから、前年同期比では減益傾向が継続する見通しです。

戦略投資事業：2QよりSeven SeasのPL連結を開始し、2Q～4Qの期間で2.8億円の利益貢献を見込んでおります。また、下期にかけてはフライヤーおよびがんばろう徳島の利益が例年下期に偏重していることや、日本文芸社の業績改善が進捗することにより、赤字幅が縮小する見通しです。



2QよりSeven SeasのPLを連結

9か月間で2.8億円の営業利益への貢献を想定

Q3

取次事業の成長率(既存/新規)について教えてください。

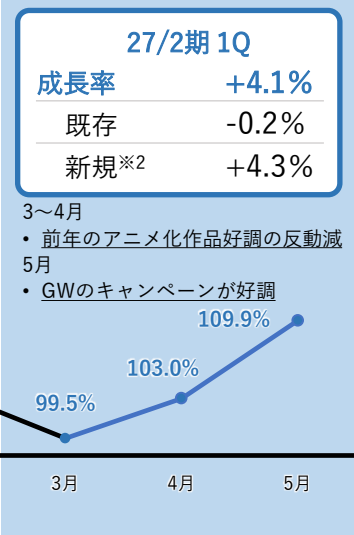
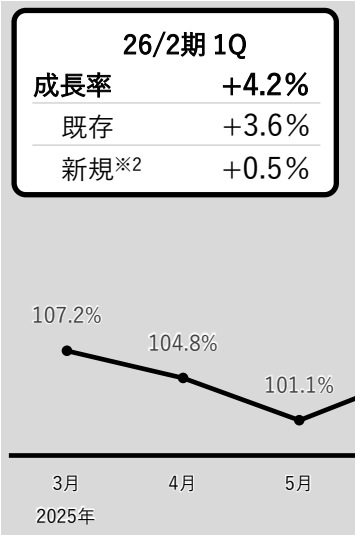
A

27/2期 1Qの売上高成長率は前年同期比+4.1%となりました。内訳は、既存商流の成長率が-0.2%、新規商流の成長率が+4.3%となっております。月別の動向および今後の見通しは以下の通りです。

27/2期 1Q（3月～5月）の動向：3月から4月にかけては、前年同期におけるアニメ化作品の好調に伴う反動減が生じました。一方で、5月についてはゴールデンウィーク中のキャンペーンが奏功し、好調に推移いたしました。

27/2期 2Qの見通し

：前年同期に実施された大手書店の大型キャンペーン（6月）や、新規商流の獲得（7月）に伴う反動減が想定されます。なお、各月の成長率は、人気作品の新刊刊行やアニメ化のタイミング、大型キャンペーンの実施動向等に左右される傾向がございます。





Q4

27/2期1Qにおける戦略投資事業の営業損益の内訳、および今後の見通しについて教えてください。

A

27/2期 1Qにおける戦略投資事業の営業損益は、前年同期比で悪化し、2.5億円の営業赤字となりました。

悪化の主な要因および事業ごとの状況は以下の通りです。

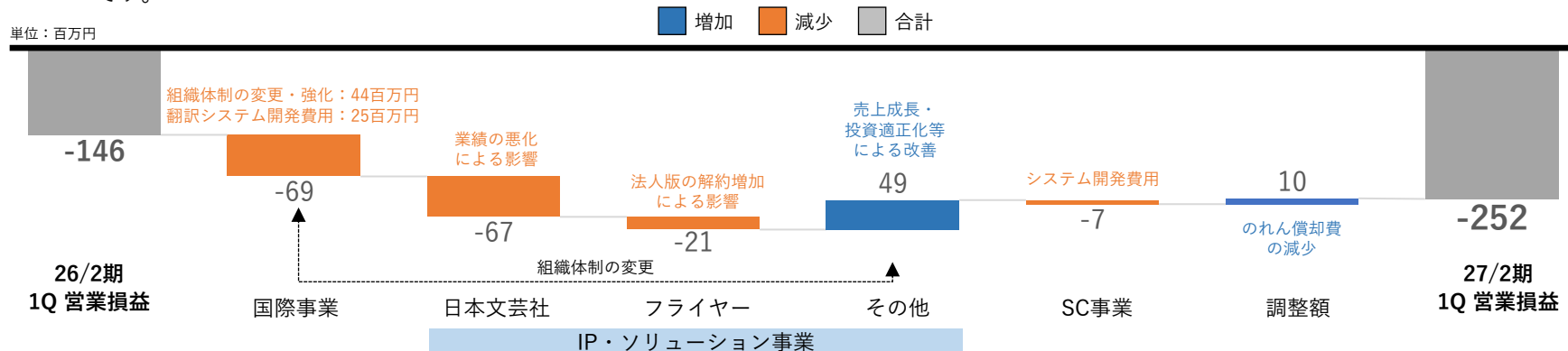
- ・国際事業：組織体制の変更・強化に伴う費用増に加え、27/2期より翻訳システムの開発費用を計上した影響により、前年同期比で損益が悪化いたしました。

- ・IP・ソリューション事業

日本文芸社：実用書部門が改善基調にある一方、26/2期 3Qよりコミック部門の損益が悪化しており、現在は組織体制改革と並行して業績改善に注力しております。

フライヤー：法人版の解約増加により損益が悪化したものの、26/2期に実施したM&A（AIStep社、Zealox社）が損益改善に寄与いたしました。

【27/2期の通期見通し】日本文芸社については、引き続き改革を進める中で赤字が継続する見通しです。しかしながら、その他事業の改善に加え、27/2期 2QからのSeven Seasの連結寄与により、戦略投資事業全体としては前期比+3.5億円の改善となり、営業赤字は2.8億円まで縮小する見込みです。





Q5

Seven Seasの足元の業績、および連結業績への貢献時期と金額感について どのように見込んでいるのか教えてください。

A

Seven Seasの足元の業績および連結業績への影響・見通しは以下の通りです。

【足元の業績状況】

FY26 1Q（1-3月）の業績は、売上高22.5億円、調整後営業利益5.3億円となりました。1月における豪華本の想定以上のヒットなどが寄与し、期初計画を上回って推移しております。なお、Seven Seas単体の通期計画としては、売上高79.9億円、調整後営業利益14.3億円（159.93円/USD換算）を見込んでおります。

【連結業績への貢献時期および影響額】

BSは27/2期 1Qより連結済みであり、PLの連結は2Qより開始いたします。同社の季節性として例年2Q（4-6月）の利益は弱く出る傾向がございます。27/2期（今期）においては、9か月分の損益取り込みにより2.8億円の利益貢献を見込んでおります。この数値は、Seven Seasの営業利益の前提（直近実績約16億円に対し保守的に約13.5億円を想定）の9か月分から、PMI関連費用（約1.5億円）およびのれん償却費（約5.8億円）を控除して算出したものです。

決算FAQ 通年

FAQs for Year-round



Q6 27/2期の数値計画について教えてください。

A

27/2期の業績予想は、売上高1,180億円（前年比+8.7%）、営業利益24.0億円（-2.2%）、当期純利益12.0億円（-34.0%）となっています（営業利益の増減要因の詳細については次のページで説明いたします）。なお、当期純利益は、26/2期に持分法適用会社MyAnimeList株式譲渡に伴う関係会社株式売却益（5.3億円）を計上しており、これにより減益幅が大きくなっています。

	26/2期 実績	27/2期 予想	前期との差異
売上高	1,085.3億円	1,180.0億円	+ 8.7% (+94.7億円)
営業利益	24.5億円	24.0億円	- 2.2% (- 0.5億円)
経常利益	25.5億円	20.5億円	- 19.6% (- 5.0億円)
親会社株主に帰属する 当期純利益	18.1億円	12.0億円	- 34.0% (- 6.1億円) 26/2期のMAL売却益（+5.3億円）による影響
EBITDA	36.6億円	41.0億円	+ 11.8% (+4.4億円)



Q7 27/2期の営業利益予想における各事業の増減要因について教えてください。

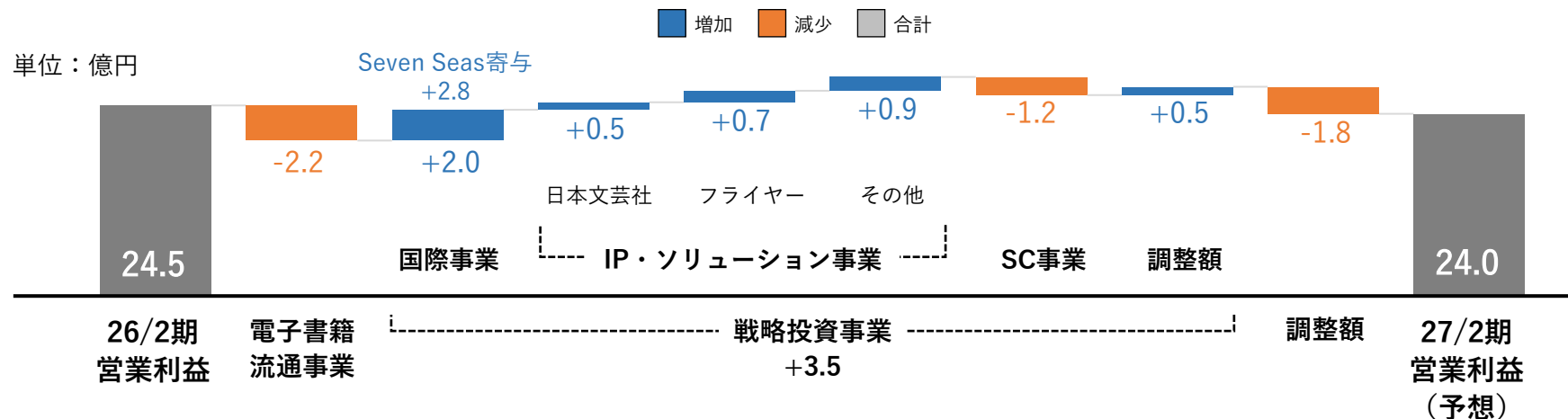
A

27/2期の営業利益は、前期比0.5億円減（-2.2%）の24.0億円を見込んでいます。増減の内訳は以下のとおりです。

電子書籍流通事業【-2.2億円】：売上高は増加するものの、26/2期下期に利益率の高いサービスが終了したことに加えて、出版業界のインフラとなるための投資の実行により減益

戦略投資事業【+3.5億円】：買収したSeven Seasの業績が2Qから9か月分寄与とIP・ソリューション事業を中心とした利益改善

調整額【-1.8億円】：セキュリティ対策の強化や再成長に向けた体制強化による本部費用の増加





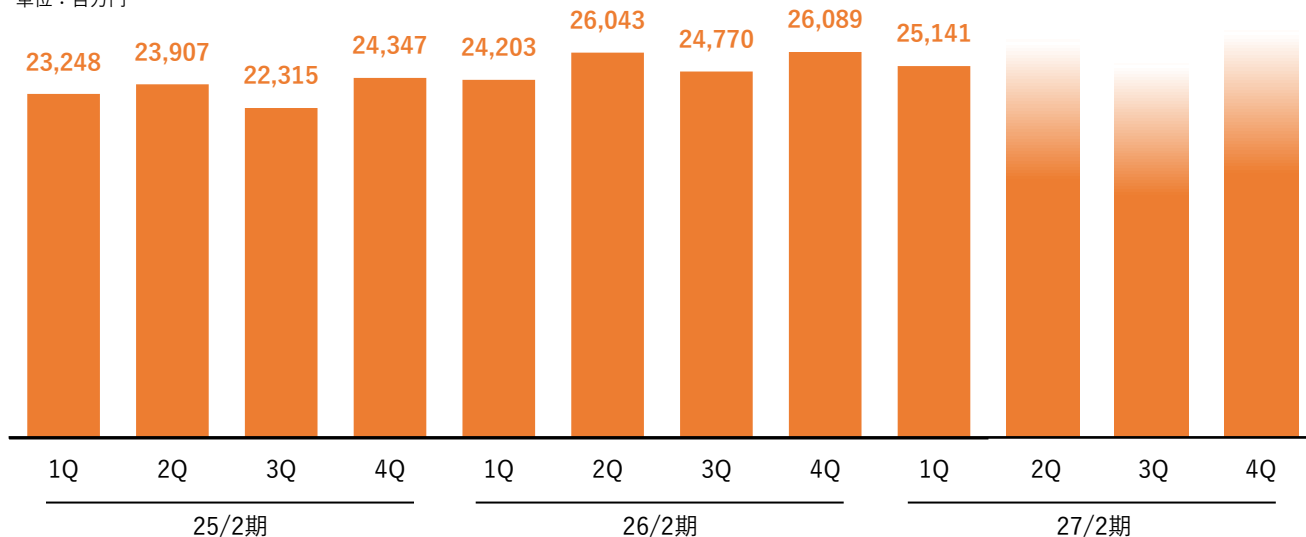
Q8 売上高の季節性について教えてください。

A

例年、長期休暇(夏休みや冬休み等)を含む2Q・4Qの売上高が大きくなる傾向があります。

電子書籍流通事業 売上高推移

単位：百万円





Q9 事業ポートフォリオの見直し基準について教えてください。

A

買収3年目以降、ROIC基準（8%）を下回ることが見込まれる場合、対象会社のピボット、経営者交代、売却・撤退等の実施を検討します。近年は以下の取り組みを実施しており、今後も適切に事業ポートフォリオを見直してまいります。

	子会社	持分法適用会社	関連会社未満・事業
24/2期	売却 Jコミックテラス	—	撤退 縦スクロールコミック事業 （作品制作からの撤退） 売却 エーアイスクエア
25/2期	撤退 ジャイブ （紙書籍編集事業からの撤退） 売却 エブリスタ	—	売却 PUBNAVI 売却 音楽事業 売却 Creatubbles
26/2期	清算 ジャイブ 売却 アルトラエンタテインメント	売却 MyAnimeList 売却 PUBFUN	売却 StorySoop 売却 MediBang 売却 WCS
27/2期	買収 Seven Seas Entertainment	—	売却 Contents Lab. Blue



Q10

戦略投資事業全体の黒字化のタイミングはいつ頃を想定しているのか教えてください。

A

28/2期での黒字化を目指しています。26/2期の戦略投資事業における営業赤字は6.3億円となりました。利益改善の主な要因としては、①Seven Seasの連結による利益貢献、②日本文芸社の立て直し、③不採算事業の撤退・売却等の事業ポートフォリオ見直しの推進等を見込んでおり、28/2期までに26/2期比で合計7億円以上の利益改善を実現してまいります。



Q11

Seven Seasがメディアドゥグループに参画したことによるSeven Seasにとってのシナジーを短期と中長期に分けて教えてください。

A

Seven Seasにとってのシナジーは、主に「デジタル展開の加速」と「多言語対応・コンテンツ調達力の強化」の2点です。

＜短期：デジタル展開の加速＞

日本のマンガ市場では市場全体の売上のうち約75%を電子書籍が占めていますが、米国市場では約10%程度にとどまっています。この差分を成長機会と捉え、メディアドゥが持つデジタル流通の知見と、Seven Seasの英語圏でのブランド力や販売力を組み合わせることで、メディアドゥグループの電子書籍の海外展開を拡大していく方針です。短期的には、メディアドゥと国内出版社との取引基盤を活かし、各出版社の海外戦略において、ライセンス展開の選択肢を広げ、作品のさらなるグローバル展開を支援します。また、取扱ジャンルやラインナップの拡充により、市場ニーズに合致した作品選定を強化し、紙・電子の双方で売上成長を目指します。

＜中長期：多言語対応・コンテンツ調達力の強化＞

中長期的には、英語圏に限定しない供給体制の構築を視野に入れています。出版社との関係性においても、従来のライセンスの許諾や受諾という枠組みを超え、共同出版などより深い協業へ発展させていきたい考えです。これにより、継続的に魅力ある作品を確保し、メディアドゥグループのプラットフォームを通じて世界の読者へ届ける体制をより強化してまいります。



Q12 今後の株主還元に関する方針について教えてください。

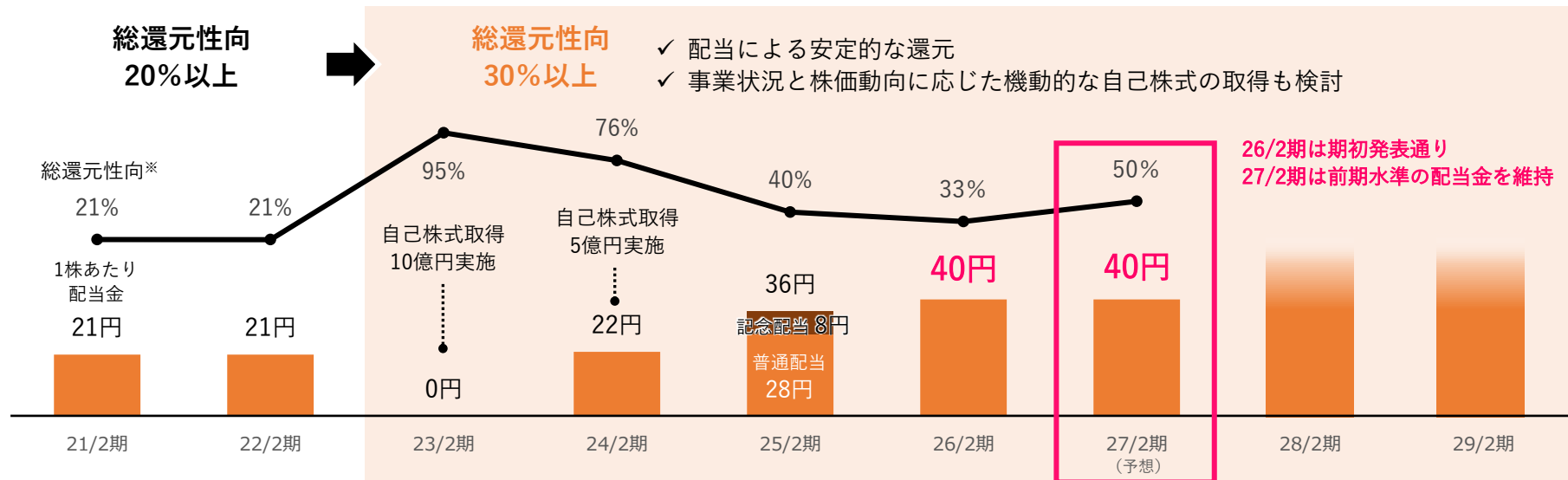
A

23/2期より、総還元性向の水準を従来の20%以上から30%以上へと引き上げ、株主還元の強化に努めております。

26/2期（前期実績）：1株当たり配当金は過去最高額の40円（配当総額6.07億円）、総還元性向は33%となりました

27/2期（今期予想）：当期は減益予想となるものの、将来の成長への自信を踏まえ、前期と同額の1株当たり配当金40円を維持（総還元性向は50%となる見込み）し、安定的な配当を継続いたします

なお、現時点で自己株式の取得は予定しておりませんが、今後の業績や株価動向を踏まえ、機動的に判断してまいります。



将来見通しに関する注意事項と会計監査について

本発表において提供される資料ならびに情報は、いわゆる「見通し情報」（forward-looking statements）を含みます。これらは、現在における見込み、予測およびリスクを伴う想定に基づくものであり、実質的にこれらの記述とは異なる結果を招き得る不確実性を含んでおります。それらリスクや不確実性には、一般的な業界ならびに市場の状況、金利、通貨為替変動といった一般的な国内および国際的な経済状況が含まれます。今後、新しい情報・将来の出来事等があった場合であっても、当社は、本発表に含まれる「見通し情報」の更新・修正をおこなう義務を負うものではありません。また、本資料内には会計監査人の監査を経ていない財務情報も含まれており、その内容の正確性を完全に保証するものではありません。従いまして、本資料に全面的に依拠した投資等の判断を行なうことは控えていただくようお願いいたします。

<https://mediado.jp/ir>



Media Do